

創造の旅を続ける私たち





虹の
キャラヴァンサライ

あいち
トリエンナーレ
2016

今年の夏に開幕する国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2016」に向けて港千尋芸術監督とプロデュースオペラを演出する勅使川原 三郎の対談が実現！同芸術祭のテーマ「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」のもとあいちトリエンナーレ2016プロデュースオペラ「魔笛」の構想に迫ります。



港千尋 × 勅使川原 三郎

勅使川原 三郎 Saburo Teshigahara
ダンサー、演出家、振付家。1981年に活動開始。1985年以降、自身のカンパニーKARASとともに世界中で公演。照明・美術・衣装・音楽も自ら手掛け、光・音・空気・身体によって空間を変化させる独創的な作品は高く評価されている。近年はパリ・オペラ座バレエ団など他カンパニーへの振付や、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場やエクサンプロヴァンス・フェスティバルでのオペラ演出など創作依頼多数。シャンゼリゼ劇場から台本・演出・美術・照明・衣装を委託された新作オペラ「Solaris」は2015年に初演された。

港 千尋 Chihiro Minato
写真家、著述家。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授。群衆や記憶など文明的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーションなど幅広い活動を続けている。著作「記憶—創造と想起の力」（講談社／1996）でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッションナーも務めた。

2月1日、KARAS APPARATUS カラス アパラスにて取材

あいちトリエンナーレ2016

虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
8月11日(木・祝)～10月23日(日) [74日間]

あいちトリエンナーレ2016
プロデュースオペラ

W.A.モーツァルト作曲『魔笛』
(全2幕・ドイツ語上演・日本語字幕付き・台詞は日本語)

9月17日(土)・19日(月・祝)

愛知県芸術劇場大ホール

指揮：ガエタノ・デスピノーサ

演出・装置・照明・衣装：勅使川原 三郎

あいちトリエンナーレ2016

主なパフォーマンス

ダニ・リマ

「Little collection of everything」

8月11日(木・祝)～14日(日)

愛知県芸術劇場小ホール

8月17日(水)・18日(木)

穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース

イスラエル・ガルバン

SOLO

10月7日(金)～9日(日)

愛知県芸術劇場小ホール

「FLA.CO.MEN」

10月15日(土)・16日(日)

名古屋市芸術創造センター

カンパニーDCA / フィリップ・ドゥクフレ

「CONTACT」

10月15日(土)・16日(日)

愛知県芸術劇場大ホール

小杉武久

10月22日(土)・23日(日)

愛知県芸術劇場小ホール

——まず監督、オペラがモーツァルト「魔笛」に決まった経緯を教えてください。

港 「モーツァルトは各国を演奏して回り、人生の1/3を旅で過ごしました。つまり、旅する芸術家の代表格。またテーマの、虹は多様性の象徴ですが、モーツァルトの多彩な曲にも感じます。あと虹は、雨上がりに現れて人々を驚かせ魅了する、ちょっと魔術的なところがありますよね。それが「魔笛」に通じませんか？モーツァルトは多様な民族や文化と

出会いはながら、それらを自家業籠中の物としてきたんです」

——勅使川原さんは、ダンスではなく「魔笛」の演出依頼をどうお感じに？

勅使川原 「私の表現はダンス、美術、映像など多岐にわたるので、オペラもごく普通にお受けました。日本では久しぶりにオペラを演出するので嬉しいですね。ただ、「魔笛」は難しい作品。登場する様々なキャラクターに比較が潜んでいる。でも難しいと考えた方が楽しいんです」

港 「それは勅使川原理論ですね(笑)。確かに難しい方がチャレンジできる。そしてアーティストは、難しいのには理由があると考えます」

勅使川原 「難しいことを見極めることは何かを見いだすこと。わからないことを排除しないで、どう表現に引き上げ、具体的にすることが楽しいんです」

——演出で具体的に決まっていることはありますか？

勅使川原 「「魔笛」は歌詞とは別に台詞のやり取りが多く、演劇的要素が入ってくるんです。それを踏まえ、



意図を示さないといけません」

港 「「魔笛」はモーツァルトの晩年に完成した作品ですけど、最も若々しさを感じます。飛翔というか、上昇するような感じが全体的にありませんか」

勅使川原 「若さというのは無邪気さですよ。年齢を重ねた人間が追憶しているわけではなく、そこで新たな何かを感じている。いちばん純度の高い部分です」

港 「老成することが若さと矛盾していないですよ。老成しないと、この若さはつかめない。そこに、単なる無邪気さではないものがあります」

勅使川原 「ある意味、自然の摂理に大きく影響されている気がします。そこが日本人の我々と通底するところじゃないでしょうか。また、「魔笛」はあくまで(生)の作品。それは、光というか。色彩も光の屈折によるものだから、光とは何なのかを考えたいですね」

港 「テーマに、虹が入っているとおり色彩と音の多様性が世界の多様性につながるんじゃないかと思ってるので、ビジュアルアーツでも色彩と音はクローズアップされるはずですよ」

勅使川原 「もしも音楽がなかったら「魔笛」から何が見えるのか。その時、ミニマルでありながら遠方へ放射するような、光の強さが必要になると思います」

港 「なぜ日本人が「魔笛」をやる

ナレーションを入れる予定。会話が長いので、要約したものを日本語で語ります。エジプトの神秘的な物語を日本人が演じるという滑稽なことにもなりかねませんから」

港 「「魔笛」は意味が多重です。あの話を勧善懲悪で語るのとは簡単なことですが、それでハッキリしすぎて、こんな何世紀も生き延びるわけがない。夜の女王は善悪どちらなのか、そう簡単にはわからないですよ」

勅使川原 「どこか矛盾があつて、わからないところを延々やっている感じも面白いんです」

港 「さらに面白いのは、今回そこに「身体」が入るんですよ？」

勅使川原 「私のグループから佐東利穂子に参加し、東京バレエ団から10数人を迎えます。歌、演奏、身体がどう統合できるか。身体は、個々と群舞の両方で生かされます」

港 「言葉とも音とも違う身体には、見た人が意味を解釈できる余地がある。そこに全く新しいオペラを期待できます。また、(登場人物の)パバゲーノのアイデンティティが変わりますよ。鳥が人間に変身したり、役割が途中で変わります」

勅使川原 「それも、演じるのではなく、変えたいですね。音楽の変調にあたることを視覚的に表現できたら……。ヨーロッパ人がやってきたことをなぞっても仕方ないので、なぜ日本人が「魔笛」をやるかという

か」と同様、なぜ、この時代に」という問題もあります。モーツァルトの時代の光を、アインシュタイン以降の宇宙を生きている我々は、同じ光として表象させるわけにいかない。それは絵空事。我々は現代の光や音の経験の中にあるわけですから」

勅使川原 「話の筋を追う演劇的演出による感情表現ではなく、感情や超人的思想を音楽から導かれる空間創造と光の変化が、不安定だが生き活きた人間存在の苦悩や喜びを多層的に表わしたい。立体のみではなく平面に対する光の変化も重要です。港さんとの共通の興味かもしれません」

港 「アマデウス・モーツァルトは、今回の参加アーティストに名前を入れたいけど今日性を持ってます。勅使川原×モーツァルトは、勅使川原さんとモーツァルトの時空を超えたコラボレーションですよ。現代美術とオペラが、同時代に対話できる芸術祭は世界中どこにもありません。お話を聞いて、本当に画期的なものになると確信しました」

Check! あいちトリエンナーレは舞台作品も充実! ダニ・リマの作品は大人も子どもも楽しめるダンス作品。イスラエル・ガルバンは革新的フラメンコ作品。フィリップ・ドゥクフレは幻想的な一大スペクタクルです。(シニアプロデューサー：唐津絵理)

Check! 小杉武久さんは、ジョン・ケージやマース・カニングハムと共演し名うてる音楽家。あいちトリエンナーレ2016は三年に一度の祭典なので、せっかくなら、まだ体験したことのないジャンルの公演にも、足を運んでいただくと嬉しいです。(シニアプロデューサー：藤井明子)

THE GOLDEN LEGEND

◎古代ギリシャ

現在のギリシャ西南部、クレタ島を含むエーゲ海の島々、アナトリア半島の西海岸に広がっていた都市国家群で、地中海世界全体に植民を続け、紀元前5世紀に最盛期を迎える。早い時期からバルカン半島では、金工品の生産が行われていた。

《耳飾り一対》
紀元前2世紀
金、ガラス、ガーネット
エレクトリア、クレオニケ・フィリスクの墓出土、ギリシャ
アテネ国立考古学博物館

編み物をするように極細の金線で複雑な模様をつくり出す金線細工は、古代ギリシャ人が得意とする技術だった。こうした宝飾品がどのように女性に身に着けられていたかは、古代ギリシャ時代の陶器や彫刻、工芸品などから知ることができる。

National Archaeological Museum, Athens, photographer: Irini Miari, or other for newer shots.
©Hellenic Ministry of Culture and Sports/Archaeological Receipts Fund



豊富な埋葬品が物語るのは、古代エジプト文明やメソポタミア文明からさらに1000年以上以上さかのぼった黒海沿岸に、鉱山から金を採取し、それを加工する高度な技術をもった民族が共同体を築いていたということにとどまらない。ギリシャ神話に描かれた黄金にまつわる数々の伝説は、まったくの絵空事ではなく、黒海沿岸の地に花開いた黄金文明の記憶を起源としていたのだ。金をめぐる太古のロマンが考古学好きの心をくすぐるだけでなく、神話が現実味を帯びること、歴史ファンをも惹きつける展覧会が、ま

1 972年、ブルガリアの黒海沿岸の都市ヴァルナで、世界最古の黄金が発見されたことを、ご存知だろうか？ 発掘された300基の墓のうち、とくに4基から副葬品として大量の金製品が出土し、それらが6000年以上も前につくられた品々であることが判明したのだ。その量はなんと5kg以上！造幣局に展示されている金塊(約15.9kg)の3分の1、京都の金閣寺に使われている金箔(約20万枚で約20kg)の4分の1であることから考えても、とんでもない量の金が眠っていたことになる。

取材・文：田中由紀子

世界最高峰の金工品が愛知に一挙集結 6000年を経ても色あせない 黄金の魅力をご堪能あれ！

もなく開催される。見どころは、展示室内に出土の状態のままに復元される、最古の金製品が発見されたヴァルナの墓。また、日本初公開となるディアデマ(はちまき状の頭飾り)に施された精緻な金細工は、女性の心を鷲つかみにすること請け合いた。

展覧会を担当する藤島美菜主任学芸員を「金製品はブルガリアやイタリアなどの世界中の博物館から借りていますが、国宝級の品々だけに、国としての力の入れようが違う気がします。古代文明の中で生まれた金の傑作が、展覧会が2つできそうなほど並ぶ減多にない機会です」と唸らせるこの展覧会。昔も今も人々を魅了してやまない黄金の至宝が、愛知に集結するこの機会に、ぜひ足を運んでいただきたい。

◎エトルリア

ローマ帝国が興る以前の紀元前8世紀から紀元前2世紀頃にイタリア半島中部に興った都市国家群。近世以降、墓地の発掘によりその文化水準の高さが明らかになったが、なにより人々を驚愕させたのは、粒金細工の超絶技巧だった。



《ペンダント》
紀元前6世紀-紀元前5世紀
金 シリア出土、エジプトライデン国立古代博物館

©Rijksmuseum van Oudheden, Leiden, the Netherlands, photography: Erik de Goederen

◎トラキア

現在のブルガリア南東部、ギリシャ北東部、トルコ西部に及ぶ地域を指す、歴史的な地名。古代ギリシャ時代にトラキア人が独自の文化を築いたものの、文字を持たなかったため謎が多かったが、今世紀の新たな発掘により解明されつつある。



《パナギュリシュテ遺宝》
紀元前4世紀-紀元前3世紀
金 パナギュリシュテ出土、ブルガリア プロヴディフ考古学博物館

1949年、ブルガリアのパナギュリシュテで粘土の掘削作業中に発見された。9点の形状が異なる食器で、総重量6.1kgもの金で作られている。酒杯であるリュトン8点には鹿や女神が象られている。アンフォラ形リュトンの底には、2人で同時に酒を飲めるように下部に2つ穴が空いている。

Photographs: Regional Archaeological Museum - Plovdiv, Bulgaria

《動物模様のある留め金》

紀元前7世紀第1四半期
金 パレストリーナ、コロンベッラ墓地、ベルナルディーニの墓出土、イタリア
ヴィラ・ジュリア国立考古学博物館

エトルリア人の匠の技ともいべき粒金細工による飾り板。粒金細工はエトルリア独自の技術ではないが、古代エジプトの粒金が約1mmなのに対し、エトルリアの最小のものは0.15mmを下回る。これはライオンや馬など動物131体が配され、外套の留め具として用いられたと考えられる。

©Immagine della Soprintendenza Archeologia del Lazio e dell'Etruria Meridionale

あなたはどれが好き？
まばゆく輝く
ジュエリーコレクション

《螺旋状のディアデマ》
紀元前4世紀末-紀元前3世紀初頭
金 スヴェシュタリ出土、ブルガリア
ソフィア国立考古学研究所・博物館

日本初公開!

2012年、ブルガリア北東部のスヴェシュタリ村にある、北トラキアの部族ゲタイの王家の墓で発見された。ライオンや神話の怪物グリュプス、スフィンクスなど精緻な装飾が施されている。

Photograph: National Institute of Archaeology with Museum - Sofia, Bulgaria



《16個の垂れ飾りのついた首飾り》
紀元前4世紀後半
金 ヴォルテッラ出土、イタリア
フィレンツェ国立考古学博物館

©Immagine della Soprintendenza Archeologia del Lazio e dell'Etruria Meridionale

《首飾り》
紀元前4世紀
金、練りガラス オルヴィエート出土、イタリア
ヴィラ・ジュリア国立考古学博物館
カステッラーニ・コレクション

©su concessione della Soprintendenza Archeologia della Toscana - Firenze



《雄牛の頭飾りのついたトルク》
紀元前3世紀末-紀元前2世紀初頭
金、ガーネット
カルペニシの宝物、ギリシャ
アテネ国立考古学博物館

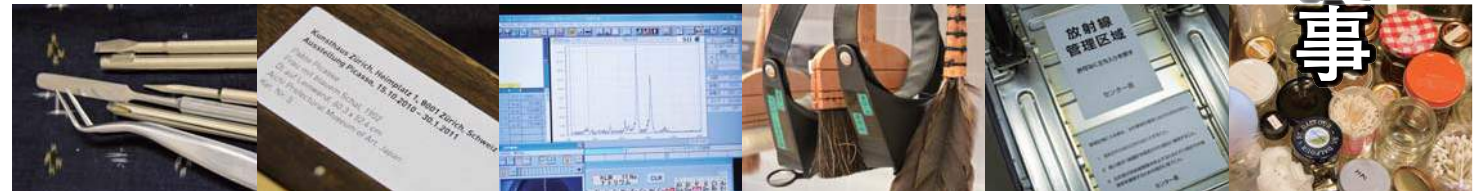
National Archaeological Museum, Athens, photographer: Irini Miari, or other for newer shots.
©Hellenic Ministry of Culture and Sports/Archaeological Receipts Fund

Check!

音声ガイドでナビゲーターを務めるのは、俳優の遠藤憲一さん。音声ガイドの担当は今回が初めてですが、ナビゲーターとしても定評がある遠藤さんならではのガイドで、展覧会がより深まりますよ。

Check!

本展には、愛知県美術館所蔵のグスタフ・クリムト作《人生は戦いなり(黄金の騎士)》も展示されます。黄金の騎士は、金の鎧をまとったギリシャ神話の女神アテナのイメージがその祖形の一つとなっていると考えられています。



愛知県美術館には、所蔵品を守る専門家 = コンサーベーターがいる。同館オープン以来この仕事に携わってきた長屋菜津子保存担当学芸員が、その人だ。展覧会の企画を行うキュレーターとはまた違った立場で美術館に関わり、作品と向き合う長屋。今回は、貴重な光学調査のタイミングをきっかけに彼女を取材。コンサーベーターという仕事に迫ってみた。

conservator

保存担当学芸員

長 屋菜津子保存担当学芸員は自らを「Dr.コト」と言うのか、無医村に来た医者のような存在。所蔵品が私の患者ですね」と、にこやかに語り始めた。全国美術館の加盟館で見ると、専任のコンサーベーターをおいた美術館は愛知県美が全国3例目。「国内では今でも、美術館の数に対して1%にも満たないんじゃないでしょうか」と長屋は言う。欧米に比べて日本は保存や修復の分野が遅れているとのことだが、実際その仕事はどのようなものなのか。

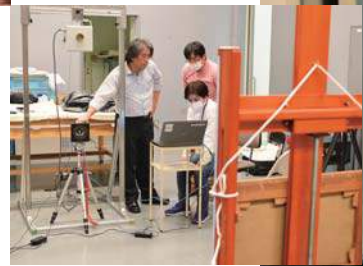
「いちばんは、現状維持ですね。いかに修復せずに保存できるかが、私の仕事の主要な部分なんです。光による劣化や退色、温度・湿度や空気成分による被害から作品を守ることも日常業務です。日本は欧米と違って温帯どころか亜熱帯に近い気候なので、虫やカビの被害にも配慮しなければいけません。また、自然災害やバンダリズム(芸術・文化の破壊行為)に備えることや、スタッフの作業中に起こりうる事故を未然に防ぐことも仕事のうちです」

「私が着任した頃は収蔵庫の燻蒸が行われていたんです。これは酸化エチレンと臭化メチルから成る毒ガスで生物を死滅させる方法なんですけど、私は当初から疑問を投げかけていました。当館周辺には小中学校や保育園が点在しています。このようなものに頼らなければ作品は守れないのか？ そんなはずはないと思いましたが、だから、いち早くIPMプログラム(※左ページ参照)に取り組み始めたいです」

穏やかな表情とは裏腹に、とてもハードな業務内容。長屋は愛知県美が所蔵する数多くの作品ひとつひとつを人間になぞらえ、ひとりひとりの健康状態に留意する。ただ、例えば日本画とヨーロッパの絵画では、翻訳の問題も含め修復に関する用語が異なるケースも多く、患者のカルテを作ろうにも共通言語がない。そこで長屋は、愛知県美における定義をまとめて紀要で公開するなど、日々、手探りで現場の改善にまい進してきた。「これは誇れることなんですけど」と、うれしそうに聞かせてくれたエピソードも印象的だ。

「私に本格的に取り組んでいる美術館・博物館はほとんどなかったのだから、厳しさと優しさを兼ね備えた女性だ。愛知県美開館当初から在籍しているベテランは、建設時、空調の具合が気になって専門業者の人たちと天井裏にまで上がったとか。行動力や完璧を求める姿勢には圧倒されるが、どこかユーモラスな思い出話に笑わされてしまう。次に紹介する光学調査の現場でも、作品と2台のパソコンの間を跳び回る姿は眩しいほど輝いていた。ただ、取材はおりしも木村定三コレクションのひとつ『黒漆厨子』の背板を解体して修復することを決定した直後で、「2年も悩んで決断したけれど胃が痛い」と本音を漏らす瞬間も。「孤独な作業です」という言葉にも、背負っている責任の重さを感じた。

1 奈良文化財研究所のみなさんを迎えた光学調査の様子。電波と光の間の領域にある「テラヘルツ」を利用することで、作品の断面や絵画の層を見ることができる。例えばX線撮影では中の様子を一枚の平面としてしか見られないので、それを補う方法として5~6年前から活用されている。作品へのダメージがないのもテラヘルツの利点。ただし、まだ機材が高額で普及には時間がかかるという。



光学調査の現場に潜入!

2015年12月某日、愛知県美の施設内では光学調査が行われていた。対象はピカソの《青い肩かけの女》。開催中の「ピカソ、天才の秘密」展にも並ぶ愛知県美所蔵の名品だ。同作のようにピカソの「青の時代」に描かれた絵画は多重構造になっているものが多く、下に別の作品を確認できる可能性が……。そこで、スペシャリストを迎えて光学調査の機会を設けたのだ。長屋保存担当学芸員にとっても特別な業務の一日。その模様をレポートしたい。



2 高橋秀治副館長に画像を説明する長屋。「上描きの際、ぬりつぶしては非常に平滑にされているので、一度目のイメージをなるべく消そうとしたのではないかと」「削る、拭き取るとは違う痕跡がある」「下の絵具と上の絵具の関係は?」といった会話が聞こえてくる。何かありそうでも具体的なイメージまでは不明とのことだが、解析していく様子は推理ドラマを見ているようでドキドキ。



3 高橋副館長には《青い肩かけの女》にまつわるお話も聞くことができた。この作品は1987年に東海銀行(現・東京三菱UFJ銀行)から寄贈されたもので、当時でも十数億円、現在ではその倍以上と言われるほど貴重。昨年9月にはスペイン・バルセロナにあるピカソ美術館に貸し出され、副館長は作品随員として現地へ赴いた。その際、スペインの全国紙から取材を受けるなど熱い反応に驚き、作品の位置づけを再認識、再確認したという。「私たちは所蔵品として慣れ親しんでおりましたが、青の時代の中でも重要な作品なんですよ」と副館長。



4 奈良文化財研究所の高妻洋成さんからも興味深いお話を。高妻さんは高松塚やキトラの古墳にも関わっていらっしゃる保存科学のスペシャリスト。例えば、先のページで紹介した「黄金伝説」展に出品されているものも、このような地道な調査をひとつひとつ積み重ねる人たちの存在があるからこそ、私たちは詳しい情報を知ることができるのだ。



5 X線透過画像を見ながら、実物と比較。何が写っているのか解析するおふたり。



7 元どおり額に戻すまでが長屋の仕事。「ピカソ、天才の秘密」展の担当のひとり、中野悠学芸員も手伝って、ペンライトでも入念な確認を。



6 今度は蛍光X線分析。数センチ間隔、秒単位で行われるうえ、放射線にも注意が必要で、神経をとがらす作業が続いた。



屋外彫刻の洗浄
愛知芸術文化センター10階 屋外展示Ⅱ 今井瑠郎(大地)

作品の洗浄
作品を永く保存するためには、清潔さをキープすることも大切。当然それは、より良い状態で鑑賞してもらうことにもつながる。そこで「洗浄」も基本的な業務のひとつに。彫刻や、繊細な工芸品でさえも専門の技術で洗うことができるから驚きだ。



1mメートルの集塵分析

IPMプログラム
IPMとは[Integrated Pest Management]の略で、「総合的有害生物管理」などと訳される。もともとは農業の分野から提唱され、むやみに化学薬剤で有害生物を駆除するのではなく、環境に配慮しながら生態的・生物的・物理的・化学的な手法を組み合わせて、経済的・文化的被害を引き起こさないレベルに維持管理することを指す。愛知県美では開館初期から実践してきた。

地道な積み重ねこそ肝心の日常業務アレコレ

異色の指揮者とウィーン・フィル 初の女性コンサートマスターが登場

NHK交響楽団の定期演奏会は、経歴に注目の集まるふたりを迎えて開催。ヘスス・ロベス・コボスはスペイン出身の指揮者だが、学生時代は哲学を専攻。正式な音楽教育を受けず、聖歌隊の指揮から出発して、マドリド王立歌劇場の音楽監督を務めるまでに。現在はシンシナティ交響楽団名誉指揮者だ。ヴァイオリンのアルベナ・ダナイローヴァはブルガリアの音楽一家に生まれ、現在はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートミストレス。女性がコンサートマスターに就任するのはウィーン・フィル初の快挙という。自ら道を拓いてきた二人の登場は待ち遠しい。



ヘスス・ロベス・コボス
Photo: Georges Braunschweig



アルベナ・ダナイローヴァ



Photo: 中川幸作

NHK交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)
2017年1月21日(土)
愛知県芸術劇場コンサートホール



オルガンコンサートが目白押し!

近年、夏休みシーズンとクリスマスシーズンの2プログラムが恒例となっていたオルガンコンサートだが、2016年度はにわかに倍増! 実に4公演と目白押しだ。特にドイツの巨匠エドガー・クラップの来日公演にはご注目を。ご存じのとおり、愛知県芸術劇場のパイプオルガンはドイツ製。伝統的なドイツ・オルガン作品に精通したクラップが、愛知の誇る名器で何を演奏するのか、期待は尽きない。オルガン未体験の人は、時間・料金ともに気軽な設定のTHE オルガンNIGHTから入門するのもアリです。

- 夏 **THE オルガンNIGHT 2016**
7月20日(水)
- 秋 **エドガー・クラップ オルガンスペシャルコンサート**
10月20日(木)
- 冬 **クリスマスはオルガンだ! 2016**
12月23日(金・祝)
- 春 **スプリングオルガンコンサート**
2017年3月30日(木)

いずれも愛知県芸術劇場コンサートホール

初登場の話題作から恒例企画まで!
愛知県芸術劇場 最新ニュース
2016年度

愛知県芸術劇場には2016・2017年シーズンも話題作が続々登場。大ホールを使ったドラマティックでスペクタクルなダンス公演から、気鋭アーティストによる子ども向けプログラムまで、最新情報をお届け!



Noism1×Noism2 劇的舞踊「ホフマン物語」(2010) Photo: 篠山紀信



Noism1×Noism2 劇的舞踊「カルメン」(2014) Photo: 篠山紀信

金森穰率いる舞踊団が 大好評シリーズを愛知初公演

新潟市の劇場「りゅーとぴあ」の専属舞踊団にして国内外で高い人気と実力を誇るダンスカンパニー、Noism(ノイズム)が評判の〈劇的舞踊〉シリーズを愛知で初披露する。当地待望の大ホール公演ともなり、金森穰芸術監督のスペクタクルな演出を存分に味わえる。劇的舞踊は文字どおり演劇の要素が入ったダンス作品だが、今回はバレエの名演目「ラ・バヤデール」を大胆に翻訳して新作上演。今日的な解釈でコンテンポラリーダンスに仕立て上げる。脚本は、映画「幕が上がる」の原作・脚本でも注目された平田オリザに依頼。静岡県舞台芸術センターの専属劇団SPACから3人の俳優を迎える。原作ではインドを舞台にした男女の愛憎物語が、どんな変貌をとげるのかも見モノだ。ダンス、音楽、演劇に加え、建築や衣裳の優れたスタッフも招く舞台には、ジャンルの枠組みをはるかに越えた、まさに総合芸術が出現する。

**Noism1×Noism2
劇的舞踊
「ラ・バヤデール — 幻の国」**
7月16日(土)
愛知県芸術劇場大ホール

子どもと大人、一緒にワクワク!



おいしいおかしいおしばい 「わかったさんのクッキー」

8月23日(火)・24日(水)
愛知県芸術劇場小ホール



2015年、神奈川公演より Photo: 前澤秀登

寺村輝夫の絵本を原作に、チェルフィッチュの岡田利規が脚本・演出。現代美術の金氏徹平、音楽の前野健太が国際的に活躍する面々が、子どものために本気で作った評判の舞台だ。ごっこ遊びのような楽しさに終演後もキッズ大興奮!

不思議の国のアリスの クラシックコンサート

8月6日(土)
愛知県芸術劇場大ホール



昨年公演より

昨年好評だった親子で楽しめるクラシックコンサートの最新作。鼻歌がいつのまにか壮大な曲に変身! 「不思議の国のアリス」の音楽劇で作曲方法をわかりやすく紹介。アリスと一緒に歌うと劇が進むよ。参加してね〜!

劇場探検ツアー

8月3日(水)
愛知県芸術劇場コンサートホール



昨年の様子 Photo: 羽鳥直志

愛知県芸術劇場の名物キャラクター(!?)、ジョニー隊長&ジョニー副隊長の案内でコンサートホールの裏も表も探検。あまり知られていない部屋の存在も明らかに……!? 劇場のひみつを知りたい少年少女、集まれ〜!!

こんにやく座によるワークショップ オペラ「魔笛」をつくろう!

7月23日(土)・24日(日)
愛知県芸術劇場大リハーサル室



昨年の様子 Photo: 羽鳥直志

モーツァルトが作曲したことで有名な「魔笛」をテーマに、音楽・演劇・道具作成の要素を盛り込んだ小学生向けワークショップとして開催。歌をうたうことが好き! 人前で話すことが好き! 両方苦手だけど工作が好き! なキミ! 夏休みの体験学習にも最適です。

THE オルガンDAY 2016

7月21日(木)
愛知県芸術劇場コンサートホール



昨年の様子 Photo: 中川幸作

前述のTHE オルガンNIGHTと同じく気軽な感覚で、家族揃って楽しめるオルガンコンサート。プログラムは子ども向けだけでなく、未就学のお子さんにオススメの“幼児向け”も! おなじみの曲と一緒に歌ったり、みんなで盛り上がりよう!



昨年のファミリー・プログラムでは満員御礼のイベントが続出。中でも探検ツアーは無料で参加できることもあり、毎回人気なんです。募集の時期や内容はチラシやウェブサイトでお知らせしますね。(舞台技術グループ: 家田沙緒里)



「ラ・バヤデール」には、プロ・カンパニーのNoism1と、若手研修生からなるNoism2両方のメンバーが出演。さらに、SPACの役者さんも出演するので、ダンスファンだけでなく、演劇ファンの皆さんも必見です。(プロデューサー: 山本妻子)

04

名古屋の作曲家・伊藤美由紀が主宰するニンフェアルは昨年、現代音楽の芥川賞とも言える第14回佐治敬三賞を受賞。常に革新的で、後ろを振り返らないチャレンジ精神が、高く評価されてきた。今回は、西尾市出身で同じく佐治敬三賞に輝いたリコーダーの鈴木俊哉、優れた技術と豊富な経験を誇るアコーディオンの大田智美が出演。伊藤と同じく名古屋を拠点に活躍する作曲家・田中範康がそれぞれ書き下ろした新作の世界初演を果たす。身体を使って風を吹き込むと音が鳴るアナログな楽器のリコーダーとアコーディオンは、コンピューターで作られたエレクトロニクスとどう響き合うのか楽しみ。

アナログVS テクノロジーの コンサート!?



伊藤美由紀
(ニンフェアル代表)

**ニンフェアル第12回コンサート
「ReAccord」**リコーダー+アコーディオン+エレクトロニクス
6月19日(日)



鈴木俊哉
Photo: Guido Grugnola

大田智美
Photo: Ryoichi Aratani

時代の空気と 鋭く共振するダンス 愛知単独公演!

数々の伝説を作り上げてきたH・アール・カオス演出・振付家の大島早紀子が6年ぶりに新作発表。本作エタニティでは「永遠」と「虚無」の間で揺れ動く人間の生きることの「恍惚」と「痛み」が織りなされる。大島の深い哲学と自在な演出・振付、天才の名を欲しいままにしてきたダンサー白河が見るものを恐ろしくも美しい夢の世界へと誘う。

**H・アール・カオス
白河直子ソロダンス
「エタニティ」**
7月1日(金)~3日(日)



Photo: 小籠栄



KENTARO!! Photo: 竹内里摩子

**ヴェルテダンス
「CORRECTION」**
10月14日(金)・15日(土)



靴がくっついた!? おかしくて新鮮な ダンス上陸

現在のコンテンポラリーダンスやパフォーマンスのけん引役となっている面々が愛知に集結。最先端の身体表現を次々と披露する。旬の顔ぶれによる小品を一度にたくさん観られるショーケースは、ビギナーにもツウにも嬉しい。アナタ好みの人がきっと見つかるはず。

世界各地の演劇祭やダンス・フェスティバルで評判を呼んでいるチェコの新進カンパニーが日本初上陸。床にくっついた靴を履いて踊るダンサーたちは爆笑モノだが、制限された中で生まれる動きには驚きや気づきがあるから不思議。クラリネットの生演奏もイーンです。



**第15回AAF戯曲賞受賞記念公演
「みちゆき」**
9月9日(金)~12日(月)



昨年の審査会后、受賞を記念して撮影。中央が松原俊太郎

新進作家が 日本の現在を直視

審査員の篠田千明に「東日本大震災以降、叫ぶでも黙るでもなく、言葉を紡いだ作家」と評された松原俊太郎の第15回AAF戯曲賞受賞作を、同じく審査員で地点の三浦基による演出で上演。3.11以降の世界と真っ直ぐ向き合う大型新人の作品がどう舞台上に現れるか、大いに期待が高まる。

01

**ダンスとラップ
~島地保武×環ROY
「あしか」**
4月22日(金)~24日(日)



Photo: 後藤武浩

カラダとゴゴロバを 音でつなげる

現代ダンスの代名詞的存在フォアサイスのもとでも踊ってきた島地保武と、アートの分野でも活躍するラッパーの環ROYが競演。それぞれ欧米から入ってきた表現に取り組んでいる両人が、あらためてダンスや音楽の根源的などころに迫る試みだ。そこで作業を分担せず、共に歌い、共に踊る趣向に!? そうして互いに受ける刺激は観客にも波及していくはず。なお、ふたつのステージから成る舞台美術も面白い空気に拍車を掛けそう。

ミニセレ2016は、さらに鋭く、新しく...!!

ニッポンJUN Mini Theater Selectionは、愛知県芸術劇場小ホールを使って先駆的・実験的なステージをお届けするシリーズ。2016年度も切れ味鋭い作品がドンドンと並び、またまた観客を刺激の迷宮へと誘ってくれそう。

「あなたの心に二石を投じる。」感動を疑え、というキャッチコピーのもとと昨年度からミニセレはスタートした。ジャンル横断的で、ブラックボックスの特性を生かした新しい作品を集めているので、例えば「他のアートの気になるけど何から観ていいかわからない」なんて人におすす。そこで、気になる各作品をいち早くご紹介いたします!

**THE LAST GREAT HUNT
「It's Dark Outside おうちにかえろう」**
5月7日(土)・8日(日)



Photo: Richard Jefferson

子どもも楽しい! 魔法のような世界

世界最大規模のエンジンバラ演劇祭でも評判を呼んだオーストラリアのカンパニーが来日。奇才ティム・ワッツの演出による舞台は言葉を使わないノンバーバルの形式で、人形や仮面、アニメーションなどを駆使。彼らの拠点、パースの環境に由来するのか、独特の自然観ともあいまって不思議な幻想の世界を出現させる。今回は、逃げていく記憶を追いかける(?!?) おじいちゃんの逃避行劇。認識と現実の感覚のズレに、ユーモアや悲哀が浮かび上がる。

**木ノ下歌舞伎
「義経千本桜
—渡海屋・大物浦—」**
5月27日(金)~30日(月)



Photo: 清水俊洋

現代における カブキの 可能性とは!

歌舞伎の現代性を追求する木ノ下裕一の集団が10周年を迎え、代表作「義経千本桜」から「渡海屋・大物浦の場」を上演する。演出は、東海地区初登場となる東京デスロックの多田淳之介。「地域密着、拠点日本」を掲げ、韓国との共同制作も成功させた多田が、今どう我がの古典と向き合うか。江戸時代に源平合戦を題材として書かれた物語が、平成28年の日本人によって新たに読み解かれる。「海」や「国」のイメージが作品の鍵に...?!



Check!

今年のミニセは「小さくまとまらないミニセ」を掲げて進んでいきます。四つ折の大きなチラシは、センター内各所や、あちこちの劇場や文化施設に設置していただきます。見かけたら、お手に取ってみてください。(広報担当: 福島尚子)



～表現を支える現場レポート～

野球ファンはもとより広く一般市民から親しまれるナゴヤドームは、中日ドラゴンズのホームグラウンドとしても各種イベント会場としても、日々、最大規模の興行が開催されている。2016年はドラゴンズ球団創設80周年にあたり、ナゴヤドームも翌2017年に開場20周年。そんなアニバーサリーイヤーを前に、ナゴヤドームでは大掛かりなリニューアルを行った。2016年のリーグ優勝、そして日本一に向けては、たくさんの観客による声援が不可欠だ。そのためにどんな新しい試みが導入されたのか？ また大型施設を管理・運営する苦労は？ 現場を支えるスタッフのみなさんにお話を聞いてみました！

最大規模のイベントを支える ナゴヤドームの縁の下

リ ニューアルいちばんの目玉は「フィールドシート」の新設だ。1塁側・3塁側それぞれに64席設けられたフィールドシートは、グラウンドの選手とほぼ同じ高さの目線で観戦できて、相撲で言えば、砂かぶり、の迫力が味わえる。それだけにシートは早くも完売。一般発売分もチケット争奪戦になることは間違いない。

もちろん、リニューアルには他にも様々な趣向が凝らされている。企画・広報部の勝野由倭子さん、施設部の松永恭一さんに話をうかがった。

「グラウンドとスタンドの間の防球ネットを細くし、色はブラウンに変えました。またネットを支えていた支柱は概ね撤去し、全体的に見やすさを意識しています」（勝野さん）

球場でも劇場でも、観客目線のサービス向上は基本。そのサービス精神を支える土台は、日頃の維持・管

理にあるだろう。

「施設部は通常10時～18時勤務のところ、試合開催日は午後出社し試合終了後まで、イベント開催日はもっと変則的。早朝深夜業務も多いですね（苦笑）。現在は13人いるんですが、シフト制で対応しています」（松永さん）

勝野さんが緑区出身、松永さんが北区出身で、ふたりとも生粋の名古屋っ子。ともに地元企業、地元のスポンサーの職場で働きたくて、株式会社ナゴヤドームに入社したという。

取材の最後、松永さんに「異動してみたい部署はありますか？」と尋ねると、「瞬だけ間において「施設部は面白いですよ」との返答。ちょっと胸が熱くなった。勝野さんたち広報担当がナゴヤドームを代表して話す機会が多いとしたら、松永さんたち施設部は、ナゴヤドーム、と言えるほど一心同体のような存在。無論すべての部署の連携によってナゴヤドームという大型施設の運営は成り立っている。そして根幹にあるのは、仕事の面白さを実感しながらますます創意工夫に努める、スタッフひとりひとりの心意気なのだと思ふ。



話題のフィールドシートを、
広報・小出が
ひと足早く体験！



ホーム、ビジターともにベンチも改装中。

ラバーフェンスも、より弾力のあるものに一新。既存のフェンスと比べると、かなり柔らかい。選手にとっては安全度が増す半面、ボールの跳ね返りが変わるので注意が必要。



座席の下には荷物入れがあり、肘掛け部分にはテーブルが収納されていて便利。ネットはあっても凄い迫力にビビる！

Nagoya Dome



ピッチャーズマウンドは野球以外のイベントにも備えて昇降式になっている。写真は降りた状態。愛知県芸術劇場大ホールとのせり差は13メートル下がるが、ナゴヤドームのマウンドは約2.5メートルの落差。なお、赤土や「アンツーカー」と呼ばれるレンガを砕いたものなどを混ぜて作られ、経験豊かなスタッフが気候にも気を配りながら状態を保っている。

日頃は見られない裏の裏まで!?
変貌する
ナゴヤドームに
潜入!



ビジターエリアのベンチ裏に潜入。まずは監督・コーチ室から。ホーム側は、こちらより広いそう。



ブルペンも拝見！プレートの思いがけない厚さに驚く。



選手ロッカー室。来場者プレゼントだったユニフォームを掛けてみて興奮する小出。



ナゴヤドーム
住所：愛知県名古屋市中区大幸南一丁目1番1号
交通：地下鉄・ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅より徒歩約5分
JR・名鉄「大曽根」駅より徒歩約15分
※休業日あり。
詳しくは [ナゴヤドーム](#) 検索



ミラールーム。「代打の切り札」と呼ばれた男たちがココで……!!



浴室。劇場の場合はシャワー室のみが多いが、球場では浴槽もあって身体を温められる。



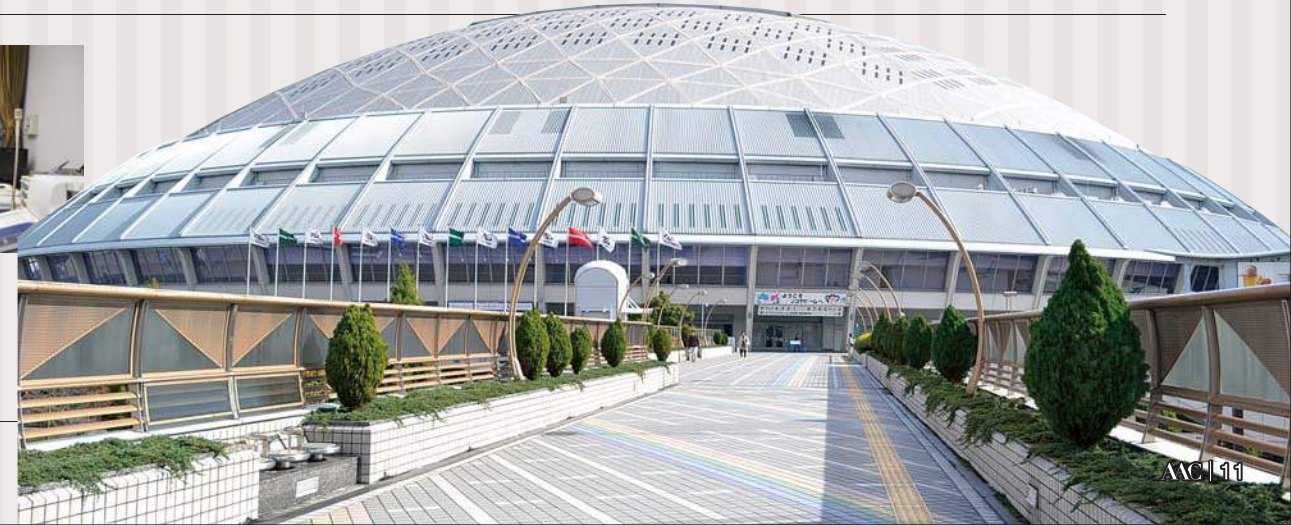
大型施設では火災対策も重要。場内には赤外線火災検出器4基と放水銃4台が設置されている。なお、緊急車両の動線なども常に意識されているとのこと。



巻いて収納された人工芝。芝が縮まないよう、冬場は暖房をつけたままの状態を保管されている。芝を清掃する専用の車両も。



アナウンス室からの眺め。ファウルボールへの注意などを放送するほか、スタジアムDJもここからナビゲート。



パブロ・ピカソ 誕生の軌跡

松井裕美(名古屋大学文学研究科 特任講師)

清新な息吹 呼び込む新企画

池野恵(舞踊批評)

天才と呼ばれる芸術家ピカソの生み出される行程を、彼の幼年に遡ってたどることができる。本展覧会は、アカデミックな教育のなかで制作された素描や油彩画の展示から始められている。決められた道を歩むことを激しく嫌悪しながら、ピカソはその後、作品の制作という実践を通して個性を証明していくこととなるのだが、美術学校で習得した技術と、美術館で身につけた知識は、制作のプロセスから放棄されたわけでは決してない。ゴッホの影響を感じさせる《母と子》(1901年)のなかにも、彼が素描学校で身につけた独特の硬質な線描を認めることができる。《パンを頭にさせた女》(1906年)の、眉から鼻にかけての美しい弧や、明確な三日月状の帯で囲まれた目は、ラ・コルニャ時代の習作《女性頭部石膏像》に認められるような形態の理想化の手法を基礎としながら、ピカソがこの頃再発見することとなる。荒々しい古代イペリア彫刻の頭部を、繊細な形態に翻案したものだ。創作のプロセスを過去に学びながらも、それを新たな実験の道具にすること。この実験のなかで、線描は、理想化と歪曲、誠実さと風刺とのあいだを行き来し、色彩は、再現と装飾の



会場風景

あいだをさまよう。キュビズム作品においては、線による形態の分析と色彩のニュアンスの技法が、描かれた対象の形態と絵画的空間とを破壊してしまふほどにつきつめられ、人々を圧倒した。的確に線をひく、的確な色をのせる。この基礎的な作業が、革新的な実験を支える武器となつて、ピカソの創造的な身ぶりのなかにひそやかに息づいていることを、本展覧会では目の当たりにすることができる。

ピカソ、天才の秘密

1月3日～3月21日
愛知県美術館にて開催中

記 録的に暖かった2016年の年明け、新春にふさわしい印象的なダンス公演が開かれた。パリ・オペラ座のエトワール、エルヴェ・モローとスイスを拠点に活躍中のピアニスト、ジョルジュ・ヴィラドムスによるカーネギーホール公演をきっかけに、こゝ愛知県芸術劇場で新たに「ダンスコンサート」の第一弾が誕生したのである。コンサートホールという親密な空間で、音楽とダンスの融合、というコンセプトが「層強く感じられた」。

プログラムはワーグナー、サン＝サーンス、ドヴェュッシェとロマン派から印象派までフランスを中心にダンスが6曲、合間にピアノとヴァイオリンの演奏4曲からなる二部構成。モロー自身の振付による日本初演作、演奏はイザイやボッセ等の珍しい楽曲が並んだ。中村恵恵振付の「ツクヨミ」は、モローたつての希望で世界初演という話題性はもちろん、後半のイリ・ペベニチェク振付の「月の光」と呼称して全体のテーマに興行性を与えた。ドロテ・ジルベール、マチュール・ガニオを加えたエトワール3人と、ヴァイオリニスト三浦文彰を配した総勢5人の舞台は、優れて質が高く清新な息吹を呼び込んだ。



月夜に煌めくエトワール

Stars in the Moonlight
1月13日
愛知県芸術劇場コンサートホール

Photo: 羽鳥直志

Check!

舞台の裏側や準備の様子を、愛知県芸術劇場のフェイスブックやツイッターでご紹介しています。客席からは見られないような貴重な一枚を撮るために、カメラのレンズも新調しました。あとは我々の腕次第です!? (広報・マーケティング室 チーフマネージャー: 林健次郎)

劇場職員セミナー2016



全国の公立劇場のスタッフが新年1月6日～8日、愛知芸術文化センターに集い、3日間のセミナーを開催した。舞台技術系、広報・アートマネジメント系に分かれた内容は全10プログラム、のべ496人が参加! その模様をお伝えします!!



避難訓練コンサートの様子



「役者・歌手目線からの劇場技術の人っていったい!?!」

劇団東京ヴォードヴィルショーの俳優・山口良一氏を招いたシンポジウム。愛知県芸術劇場 舞台技術グループ チーフマネージャーの浅野芳夫の進行で、借りる側・観る側である山口の立場から、劇場に対する率直な意見をうかがった。

「劇場の接客研修講座」

プロの方々を講師に迎え、あらためて接客の基本を学んだ講座。ホスピタリティを重視するという理念のもと、丁寧な研修が行われた。写真はチケットもぎりの様子。劇場スタッフの基本中の基本、お客様と接する最初の瞬間です!

「有料? 無料? 会員制度のメリット/デメリット」

りゅうとびあ事業企画部広報営業課長の坂内佳子氏、兵庫県立芸術文化センター事業部プロデューサーの安田江氏、かすが市民文化財団広報・コミュニケーショングループマネージャーの山川愛氏をパネラーに会員制度の現状を検証。サービス向上と現実的な運営の両面を見据え、本音トークを展開した。

プログラム一覧

- ① 基調講演「教育、福祉、まちづくり、観光、産業等、幅広い分野と連携する文化芸術振興とは」
- ② 広報「紙」が「生き残る」ために
- ③ 避難訓練コンサート
- ④ 防災についてのパネルディスカッションと意見交換
- ⑤ 舞台改修についてのパネルディスカッション
- ⑥ 役者・歌手目線からの劇場技術の人っていったい!?!
- ⑦ 欧州で高まるコンサート配信の取り組み ～トーンマイスターについて～
- ⑧ 創客のためチケットング
- ⑨ 劇場の接客研修講座
- ⑩ 有料? 無料? 会員制度のメリット/デメリット

今 回いちばん大掛かりなプログラムが愛知県芸術劇場コンサートホールを使った避難訓練、通称「避難訓練コンサート」。名古屋フィルハーモニー交響楽団の協力も得て行われた。

「過去2度行った時は、大ホールでの主催公演という想定だったのですが、今回は初めてコンサートホールで実施したんです。4階から7階に位置するホールで、地上までの距離があり、難易度が高くなりました」とは、担当した総務グループの後藤陽。

名フィル主催のコンサート本番中に出火したという設定だったので、劇場スタッフも事務所から出勤。複合施設ゆえの避難誘導の難しさを実感するなか、後藤はポイントを次のように語った。

「情報の“集約”と“伝達”が大切になると、あらためて実感しました。公演を止める止めないの判断を主催者の方にさせていただくためには、情報収集・伝達の速さと確実さの両方が求められます。今回の避難訓練コンサートをしっかり検証し、改善すべき点は着実に改善していきたいと思えます。当劇場では防災のプロジェクトチームを結成しています。防災の取り組みは継続していくことが大切だと考えています」

訓練後には観客役を務めた他劇場の職員も交え、防災についてのパネルディスカッションを開催。東日本大震災の体験者を招き、この日の感想はもとより、自らの体験談や、現在の防災意識と取り組みなども発表。劇場関係者にとって日常的な関心事でありながら情報・意見交換の機会が少ないだけに、有意義な場となった。

編集後記

今号の「おでかけAAC」はナゴヤドームさんにお邪魔しました。幼い頃からドラゴンズファンの私は、緊張して前夜から眠れず…。取材では、監督室やブルベンなどの裏側もを見せていただき、感動でまた眠れず…。ちなみにナゴヤドームでは、朝5時から草野球の利用ができるそうです。この時間なら館長が監督の当劇場チーム“Applause”も、試合ができるかも!? たいがい対戦相手募集集中! ただし、あまり強くないチームで(笑)。



広報担当: 小出 充訓

愛知芸術文化センター
情報誌 AAC

通巻87 2016年3月号

発行: 愛知県芸術劇場
(公益財団法人 愛知県文化振興事業団)
印刷: 駒田印刷株式会社
デザイン: 江利山浩二(KINGS ROAD)
編集: 小島祐未子(家鴨の編集舎)

FLOOR GUIDE

開扉：9:00 休館日：第1・第3月曜日(6月は毎週月曜日)、年末年始

総合案内
 レストラン
 喫茶店
 公衆電話
 AED
 やさしいトイレ
 赤ちゃんコーナー
 トイレ
 連絡通路有

12F
アートスペースA~H
屋外展示スペース

(11F) **展望回廊**

10F
美術館(所蔵品・企画展示室)
屋外展示スペース
ミュージアムショップ

(9F)

8F
美術館(ギャラリー)A~J

(7F)
6F **回遊歩廊**
(5F)

4F
コンサートホール



(3F)

2F
大ホール
 ← 西玄関・南玄関 オアシス21連絡橋 NHKビル連絡口



1F
アトライブラリー
 正面玄関

B1
小ホール
防災センター



B2
アートプラザ アートスペースX
リハーサル室
 ← オアシス21地下連絡通路

B3 B4 B5
駐車場(アートパーク東海)

INFORMATION



愛知芸術文化センター「メールニュース」登録受付中!
 美術館、劇場の情報をEメールで配信! ウェブサイトから登録ください。



「愛知県芸術劇場スマートフォンサイト」オープン!

Android端末や、iPhoneなどに最適化したスマートフォンサイトをオープンしました。Google ストリートビューを活用し、「大ホール」の客席、舞台などを360°のパノラマで自由に見渡すことができます。チケット購入の際などにお役立てください。

<http://www.aac.pref.aichi.jp/gekiyjo/sp/>



「愛知県芸術劇場メンバーズ」スタート!

劇場主催公演のチケットをインターネットでお求めいただける新会員制度がスタートしました。いち早く、先行発売や公演情報をお知らせします。詳細はウェブサイトをご覧ください。

◎愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

<http://www.aac.pref.aichi.jp>

◎愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド

☎052-972-0430 (月曜定休/祝休日の場合、翌平日)

チケット
 の主な取扱先

◎チケットぴあ

☎0570-02-9999 (サークルKサンクス、セブン-イレブンでも購入可)

◎アイ・チケット

☎0570-00-5310 (祝日を除く月曜~土曜 10:00~17:00)

◎名鉄ホールチケットセンター

☎052-561-7755 (10:00~18:00)



アクセス

【公共交通機関】

・名古屋市営地下鉄東山線または名城線「栄」駅
 下車 徒歩5分
 ・名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩5分
 (オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

【自動車】

名古屋高速東新町出口から3分

【駐車場】

有料駐車場「アートパーク東海」
 (愛知芸術文化センター地下3・4・5階 約500台)



愛知芸術文化センター
 AICHI ARTS CENTER

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
 TEL(052)971-5511(代表)
<http://www.aac.pref.aichi.jp>



お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
 広報・マーケティング室

TEL:052-955-5506(直通) FAX:052-971-5541 e-mail:mkt@aaf.or.jp



虹の
キャラヴァンサライ

あいち
 トリエンナーレ
 2016

翼をひろげ、泉をさがそう——世界のアートと旅する芸術祭
あいちトリエンナーレ2016

芸術監督：港 千尋

テーマ：虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅

会期：2016年8月11日(木・祝)~10月23日(日)

主な会場：愛知芸術文化センター、名古屋美術館、
 名古屋・豊橋・岡崎市内のまちなか

視察やリサーチなど着々と準備進行中!

今夏の開催を前に、参加アーティストたちが会場の視察や作品制作にあたってのリサーチをするため愛知県を訪れています。その一人、パフォーミングアーツ部門で参加する青木涼子氏が、「あいちトリエンナーレ2016」に向けての抱負を語りました。

能と現代音楽を融合させた新しい取り組みで話題を呼ぶ青木涼子氏。あいちトリエンナーレ2016では能「安達原」を題材にした、新進気鋭のフランス人作曲家オレリアン・デュモンによる能オペラ「秘密の闇」を演じます。「舞台芸術や音楽も展開する国際芸術祭は数が少ない。参加できるのは面白いし、冒険できるなと思いました」と青木氏。「『秘密の闇』は『安達原』という能の作品がフランスへ旅してできあがったもの。トリエンナーレの『旅』というテーマに合っているのでは」と語りました。能の謡(うたい)の技法とバイオリンやチェロなどの西洋の楽器によるコラボレーション。舞や衣装も含め、新しい挑戦に満ちた舞台にご期待ください。

■青木涼子氏インタビューのフルバージョンは

あいちトリエンナーレ公式Webサイトでご覧いただけます

※公演の詳細は決まり次第、公式Webサイトでご案内します



会場視察のため、
 愛知県を訪れた
 青木涼子氏。

トリエンナーレスクール開催中!

今夏の開催に向けて、現代アートを楽しみながら
 学んでいただくイベントを開催しています。

詳しくは、あいちトリエンナーレ公式サイトをチェック!

aichitriennale.jp